

# 明日への学び

2012年 9月 15日 発行  
発行：福井県教育委員会  
福井県学力向上センター  
TEL：0776-20-0295  
メール：[gakukyousei@pref.fukui.lg.jp](mailto:gakukyousei@pref.fukui.lg.jp)

## —教育情報誌「明日への学び」創刊にあたって—

福井県の小・中学生の学力は、教員一人ひとりの努力により、本年も全国トップクラスを維持しています。今後、こうした子どもたちの学力をいかに高校につなげるかが、「福井型18年教育」を目指す本県教育の大きな課題です。

また、社会経済環境が時々刻々と移り変わる中、学校教育において育成すべき人材の質も大きく変化しています。

このような中では、現在、高いレベルにある福井の小・中学生の学力も、気を抜けば瞬時に立場が入れ替わります。このため、教員は、知識や技能が時代遅れにならないよう学び続けると同時に、日ごろの授業や生徒指導について、常に様々な角度から省みて資質向上に努め、子どもたちの教育につなげていくことが重要となっています。

教育情報誌「明日への学び」は、こうした活動を続ける教員を応援する情報誌です。教育に関する国内外の動向など、教員全体に知ってほしい情報を分析して細やかに提供していきます。

また、それぞれの教員も、日々の教育実践で得た気づきなどを発信してほしいと思います。そして、この「明日への学び」を福井の教育の方向を示す情報誌としてレベルアップさせ、この情報誌をもとに福井の教育界が一体となって自らの行動を変えていく。そういう機能を果たすものにしていきたいと考えています。

教育長 林 雅 則

### <目 次>

○教員研修の見直し 一校内研修を充実する一	P 2	○調査分析結果報告会 9月 28日実施予定	P 7
○中・高の授業改善 一接続を意識する一	P 3	○いじめなどの問題行動をなくす	P 9
○高校数学の“つまずき”防止	P 4	○教育委員の活動の充実強化	P 11
○英語教員の海外研修の実施報告	P 5	○私が期待する教師像	P 12
○長期企業実習 現場の意見	P 6	○お知らせ	P 14

全教員向け

## 教員研修の見直し 一校内研修を充実する一

先般、中央教育審議会から、教員の資質向上に関する答申が公表されました。この答申では、「学び続ける教員像」の確立が強調されていますが、このために重要なのは、「校内研修」の充実です。「各々の教員の学級運営に口を出さないのが不文律」という姿勢を改め、教員一人ひとりの課題は学校全体で共有し解決する。ここでは、校内研修を行う上で必要な教員の役割や心構えを提示していきます。

### ○管理職に求められるのはコーチング力など

校長、教頭は、明確な教育目標を掲げ、学校全体の動きを俯瞰的に把握し、教員一人ひとりの資質能力を引き出す役割が求められます。そのためには、教員のやり方を頭ごなしに批判せず、共感的に理解し助言する力、すなわち傾聴力やコーチング力が重要です。常日頃から「ファシリテーター」的な役割を果たせるよう、日々の研さんに努めてください。

※教育研究所では、同所が行う新任教頭研修と大学が行う免許更新講習を同時開催し、免許更新講習受講者の小グループ討議のファシリテーターを新任教頭が務めるという形で、この力を養成しています。

### ○ミドルリーダーに必要なのは高度専門職としての多彩な知識や技能

30代後半から40代のミドルリーダーは、高い授業スキルを持ち、生徒や若手教員の指導を行い、家庭や地域との関係づくりも行います。そして、管理職を補佐し、各学校のビジョンを描くという、非常に高度な役割が求められています。教科や教職に関する知識や指導力だけでなく、様々な分野の人々と対等に話ができる幅広い知識や技能を日ごろから養っておくことが必要です。

※教育研究所では、ミドルリーダーに学校で実際の役割を果たしてもらい、日々の活動で気付いた課題の解決に取り組み、結果を省察するという実践型の研修を、福井大学教職大学院と連携して実施しています。

### ○その他の教員は多角的視点を持った指導力が必要

一般職員は、授業や生徒指導を確実に進めていくことが大事です。様々なオプションを持ち、状況に応じて試してみるなど、様々な角度から解決に挑戦できる力がないと、こうした責務は果たせません。日頃から校種や経験年数を問わず、様々な人々の話に耳を傾け、その交流の中からヒントをつかむことができる能力が必要となります。

※教育研究所の悉皆研修は、学校現場での課題をベースにその解決策を探り、自分なりの実践をレポートにまとめていきます。そして、初任者、5年・10年経験者が小グループで語り合うクロスセッションを開き、実践の内容について校種や経験年数を越えた教員から助言をもらうという方式を取り入れています。

### ○今すぐ各校で校内研修の見直しを

教員が資質を高める最大の機会は、学校における日々の教育活動にあります。教師一人ひとりが授業や指導方法を同僚に公開して自ら悩みを問いかける。同僚たちも、そうした悩みを共感的に捉え、それぞれが経験や知識を基に、語りかける。こうした交流を進め、教師が常に学び合える場を校内に創っていくことが重要なのです。県教育委員会では、本年中に「学校全体の教育力向上に関する指針」を策定しますが、子どもたちは日々成長していきます。指針策定を待つのでなく、皆さんの職場で、改めて校内研修を見直し、それぞれの教職員の成長を子どもたちの成長に繋げてください。

※教員研修の方向性については、「教員研修の在り方検討会報告書」（福井県）  
[http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gakukyousei/arikatamoto\\_d/fil/002.pdf](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gakukyousei/arikatamoto_d/fil/002.pdf) や  
 「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（文部科学省）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm) も参考にしてください。

## 中・高教員向け

## 中・高の授業改善 — 接続を意識する —

8月3日（金）に、中高授業改善事例集の作成を目指す会合が開催されました。中・高の“カベ”を取り払い、教員が連携を進め、生徒が高校の授業についていけるようにすることが目的です。

## ○中・高の教員が無関心なままでは何も生まれない

交流人事が多く、学校行事や授業研究会などを一緒に進めている小・中に比して、中・高の連携はお世辞にもうまくいっているとは言えません。高校の新生が入学が、スムーズに授業に馴染めない状況を見て、高校の教員は、「中学校の教員は一体何を教えているのか。」、中学校の教員は、「高校の教員は、中学で成績優秀だった生徒をどうして伸ばせないのか。」と不満を述べつつも、互いの状況には無関心のまま。中・高の間には設置者や学校区など制度的な“カベ”はありますが、互いに顔を合わせて話をすることは決して難しいことではありません。

## ○授業の“質”を変える — “多忙”は理由にならない—

中・高が連携することは、別に新しいことではなく、他県では既に実施されていることでもあります。批判し合うのではなく、生徒の学びを円滑に進めるために解決すべき課題は何なのか互いに顔を合わせて協議する。生徒中心に考えれば、自然とこのようなスタンスになるのではないのでしょうか。「今やってくれと言われても、中学校に高校の授業のさわりをやる時間的余裕はない。」「高校にも中学の復習をする時間などない」と、多忙のせいにするのではなく、日ごろの授業のやり方を変えてみるなどの活動を進めてください。事例として、A教員の例を取り上げます。

## ○生徒の思考中心の授業をすれば生徒の学びは中学校の枠を超える

Aさんは、数学の教員です。「円周角の定理」を教える際、教科書に書いてある定理を示し、その証明を行うというのではなく、「円に関する定理を考えてみよう」というアプローチで授業をしています。自分で試行錯誤してみても、円の角度の奥深さを自然と体験していくという方法をとるのです。このような場合、生徒の思考が深まれば、「円に内接する四角形の向かい合う角度は180度である。」といった、高校で習得するような事項の発見も自然と出てくる。中学の学習指導要領に沿った授業をするのではなく、生徒の思考をベースにした授業を進めることで、高校の授業を体験させていくのです。

## ○事例集だけに満足しない

中高授業改善事例集は、年度内の完成を目指しますが、この事例が出来上がるだけで中高の連携が進むわけではありません。やり方によっては、A教員のように、事例集がなくても実践できるのです。まずは、互いの学校の授業を見に行くところから始めるべきではないでしょうか。顔を合わせて協議することで、中高連携の必要性を感じていただき、事例集だけにとらわれず、それぞれの授業の改善方法の検討を進めてください。

高校教員向け

# 高校数学の“つまずき”防止

学力向上センターでは、数学について、高校1年生を対象に、つまずきやすい事例と改善指導事例を取りまとめた「つまずき事例および指導例」を作成しました。

(教育情報フォーラム(「高校教育情報フォーラム」→「数学部会」→「生徒が勘違いして理解しているところ」→「つまずき事例および指導例」)に掲載中)

## ○授業方法は他の教員から学べる

授業の素晴らしい教員は、よく「アーティスト」に例えられます。しかし、「芸術家」とは違います。“芸術家”であれば、自分の“センス”を基本に独創的な作品を制作し、少数の人たちだけの支持を得ても評価されることがありますが、教員の場合は、生徒の能力や日々の様子を見ながら、教員がこれまでの経験から培った様々な“知”を組み合わせ、多くの生徒が理解できる授業を進める必要があります。そのような“知”を結集し、多数の教員が共有する。そうすることで、それぞれ授業は、レベルアップするはずです。

## ○数学のつまずき防止は、教員の“知”の共有で対応できるもの

高校の新生が、数学で一学期につまづく箇所は、これまでも多くの生徒たちに共通して見受けられるものでした。そして、高校の教員は、そのつまずきを防止・解消するために、様々な指導を行っており、数学教員それぞれに様々な“知”が蓄積されています。「人それぞれで授業のやり方は違うのに、他人のやり方を学んでどうするのか。」と考えるのではなく、それぞれが自分たちのやり方をオープンにすると同時に、他の教員のやり方も参考にするという姿勢で取り組めば、“暗黙知”が見えるようになり、さらに自分に合った方法を取り入れていくことができるようになります。

## ○二学期の早いうちにつまずきを解消する

今回、「高校数学のつまずき事例および指導例」を教育情報フォーラムに掲載しているのは、そうした趣旨からですが、掲載事例は一例であり、ベストのものではありません。教員一人ひとりが自分の“知”を基に新しい提案をしていくことが、この事例集のレベルアップにつながります。ぜひ教育情報フォーラム上であなたの指導事例を提案してください。

ご承知のとおり、高校の数学は、一つの単元が他の単元と密接に関連しており、一つにつまずきが他の単元の成果に大きく影響を及ぼします。二学期が始まり、授業スピードがさらに上がっていく中で、生徒のつまずき解消に配慮しながら指導を進めてください。

文字の入った1次不等式

①  $ax > b$  の解が  $x > \frac{b}{a}$  になる。

→考えられる原因

○  $a$  は正の数としか捉えられていないので、場合分けの必要性を感じない。

→指導例

○ ことあるごとに  $a$  を具体化して考えさせる。場合分けの指導のチャンスと捉えて指導する。

① はじめに  $3x > 2$ 、次に  $-2x > 4$  を指導する。

$x$  の係数が正、負のとき、解の不等号の向きはどうなるかを確認

また、 $0 \times x > -1$ 、 $0 \times x > 4$  のときもあわせて指導すると不等式の理解が深まる

②  $ax > b$  の  $a$  は正、負または  $0$  であるかわからない

③ わからなければ、場合分けをして、符号を確定し、解を求める

(場合分けの必要性)

○ 文字を見ると文字の前に「-」がついていないので無意識に正の値であると勘違いしてしまうことがある。逆に  $-a$  を見ると負の値と考えてしまう。文字はすべての数の代表値という見方は一朝一夕には身につかない。さまざまな場面を利用して指導していく必要がある。



中・高教員向け

## 英語教員の海外研修の実施報告

平成25年度からは、「英語の授業は英語で行う」ことが原則となります。このため、7月29日（日）から8月24日（金）までの約1か月間、アメリカ・ニュージャージー州ラトガース大学において、英語教員12名が「教員の資質向上」と「英語の教授法の習得」をテーマに研修を行いました。今回の研修成果は、拠点校ごとに派遣教員から還元されます。それぞれの校区で、研修成果を活かして授業が変わったと自負できるものを必ず一つ以上挙げられるように努めてください。

### ○研修の概要

「教員の資質向上」をテーマにした研修については、英文を渡され、その内容を自分なりに要約し、英語で伝えるというトレーニングです。英語を第二言語とする学生に教えている講師陣の下で、発音がよくない場合は、その場で正しい発音に修正され、できるようになったら再開するという方法が用いられていました。また、「英語教授法の習得」については、英語で指導案を作り、20分間で、他の研修者一人ひとりを生徒に見立てて授業を行うというトレーニングが行われました。

これらの研修の成果として、派遣された教員が今後授業を行う上で考えていかなければならない点は次のとおりです。

### ○「聞き上手、話し上手」に

生徒の英語コミュニケーション能力の向上がテーマとなると、生徒が自主的に授業で発言していくことが求められます。ここで大事になるのは、「生徒がしゃべるまで待つこと」、「語ることができたことを認め、褒めること」、「先生が高圧的な身振りをする（例：生徒を指さしてあてる）のではなく、手を差し伸べる（例：「あなたはどうですか」）ような手振りで授業を行うこと」です。こうした授業を実践するために、教員は、「授業の主役は生徒」との認識に立ち、支援者や司会進行役として振る舞うことも求められます。



### ○授業ごとに達成目標を — “ゴール” を具体的に示す —

アメリカの授業では、生徒の集中力の高い最初の時点で、その授業の到達目標が示されます。教員は、その日の授業のストーリーを描いていますが、生徒はゼロからのスタート。目標が明らかでないと、目的意識が保てません。また、アメリカでは、授業の中で、今やろうとしているタスクが、パワーポイントで投影されます。英語で授業を行うこととすると、聞き取れない生徒が出てくる。このため、パワーポイントを用いて、目でも追えるような対応が重要です。

### ○今後の対応

今回派遣された教員は、英語指導改善拠点校を中心とした授業研究の中で、中核教員として授業の指導改善を進めていくこととなります。公開授業等を通して、ぜひ今回の研修の成果を具体的な授業の形で発信してください。

## 高校教員向け

## 長期企業実習 現場の意見

今年度、産業界や地域の協力を得て、工業系・農業系高校（8校）の計64名が、企業の製造現場等において、10日間（従来は3日程度）の「実践的長期企業実習」を行いました。

この研修の充実に向けて、企業現場から次のような意見をいただきました。厳しい意見もありますが、生徒が産業界に適応し、福井の将来を支える人材として育てもらうためには、学校も教育委員会もそれぞれが正面から受け止めていくことが求められます。

## 課題1：生徒のモチベーションの向上

- ・実習の間、質問を一切しない生徒もいた。ビジネスを進める上では、互いに意見や質問を言い合うことが必要だということを教えてほしい。（電子・電機系、農業系企業）
- ・大きな声でのあいさつ等、基本的な生活習慣が足りない。（機械系企業）
- ・やりたい仕事が見つかっている生徒は意欲も高い。2年生だけが参加対象であったが、意欲があるのなら、1年生や3年生を参加させてもよいのではないか。（電子・電機系企業）
- ・今回は、夏季休業中の実施であったため、暑さなどのために気力や体力を消耗してしまう生徒が見られた。夏季休業中以外の別の時期の実施を検討することはできないか。（農業系企業・団体）



## 課題2：仕事観・職業観の涵養

- ・実習中に根を上げてしまう生徒も見られたが、これこそが現場実習で得られる厳しさである。実経験こそ最も身につくことなので、学校においても事前指導に力を入れてほしい。（電子・電機系企業）
- ・職業高校の大きな目標として資格取得がある。しかし、現実的には、高校の時に資格を取得していなくても、就職後に習得することもできる。専門に関係なく、どのようなこと（仕事）にチャレンジしようとするのか心を養ってほしい。（電子・電機系企業）
- ・この研修では、生徒たちが17時には帰れるように配慮しているが、実際の現場では、残業等の超過勤務もあり得る。高校生に残業を体験させるわけにいかないため、この点は、学校の授業の中でしっかり教えてほしい。（電子・電機系企業）



## 課題3：高校教員と企業とのコミュニケーションが不足している

- ・職業高校と企業の情報交換の場を持つべきだ。今年度より、職業学科の教員が短期で企業研修を行っているというが、もっと企業現場を知ってほしい。教員は、それによって企業現場でどのような力が必要とされているのかを知ることができるはずである。（多数）

小・中教員向け

全国学力・学習状況調査の結果を受けて

調査分析結果報告会 9月28日(金)実施予定

先般、全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。福井県の児童・生徒の学力は、引き続き全国トップクラスですが、資料を読み、ポイントを整理して自分の考えをまとめるといった問題は、正答率が低く課題があります。調査結果を踏まえた指導改善策は、9月28日(金)の「調査分析結果報告会」で説明します。教科ごとの長所と課題を踏まえ、教科指導の改善を進めてください。

≪教科ごとの調査結果(長所と課題)≫

【小学生】

	長 所	課 題
国語 A	・漢字を読む、書く(1) ・調べてわかったことをノートにまとめるため、百科事典の記述から中心となる内容を取り出して書く(5ア、5イ)	・新聞記事のリード文を書くために、取材した複数の事柄を整理し、一文にまとめる(7)
国語 B	・参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する(2一)	・手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する(1三) ・雑誌の記事の特徴を、実際の紙面から適切な情報を取り出して説明する(3一イ)
算数 A	・測定値の平均を求める(4) ・表から2つの数量関係が比例の関係であることを捉える(9)	・基準量、比較量、割合を図と対比させる(3(1)) ・基準量を求めるために除法を用いる(3(2))
算数 B	・代金に対して支払った時のおつりの硬貨の種類を求める(1(1)) ・跳び箱の図を観察し、指定された段の高さを求める式を読み取る(2(1))	・表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述する(5(3))
理科	・「受粉」などの科学的な言葉や「方位磁針」などの観察器具の名称を理解している(2(4)、4(2)) ・理科で学んだ知識・技能を、実際の自然や日常生活などに当てはめて考える(1(2)、2(2))	・「虫めがね」や「方位磁針」などの観察器具を操作する(2(1)、4(1)) ・科学的な概念やデータを基に考察し、記述する(2(5)、4(5))

【中学生】

	長 所	課 題
国語 A	・図を用いた文章を書く際に、伝えたい事柄を明確に書くことや必要な情報が相手に伝わるよう説明する(5一、二) ・ひらがな表記された作品名をローマ字で書いたり歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(7六1、7七2)	・説明的な文章を読んで、目的に応じて必要な情報を読み取る(6二) ・言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いる(7三エ)
国語 B	・対話の内容を、話の展開に注意して理解する(1二) ・説明的な文章を目的や意図に応じて書き換える際に、文脈の中における語句の意味を捉えたり、効果的に伝わるように内容や表現の仕方を工夫して書く(2一、2二)	・対談の記事を読んで、自分の考えを書く(1三) ・物語を朗読する際に、物語の場面の展開を捉える(3二)
数学 A	・1回転させると円柱ができる平面図形を求める(5(2)) ・三角柱の見取図から展開図を求める(5(3))	・三角定規による平行線の作図で、同位角が等しければ2直線は平行であることを理解している(6(1)) ・二元一次方程式の解とグラフの関係を理解している(13)
数学 B	・作図の手順を理解し、作図によってできる図形の特徴を的確に捉える(4(1)) ・正十二角形の一つの外角の大きさを求める(6(1))	・軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明する(1(2))
理科	・「胚珠」や「光合成」など、自然の事物・現象についての基礎的な知識を理解している(1(1)、(3)) ・花のつくりの模式図を指摘するなど基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自然の事物・現象を考える(1(4))	・「電力量」や「浮力」の大きさを計算で求める(1(4)) ・観察・実験の結果などの根拠に基づいて、自らの考えや他者の考えを、多面的・総合的に思考し、表現する(3(3)、2(2))

※「長所」および「課題」の欄内にある(数字)は、全国学力・学習状況調査の設問番号です。

《教員の意識・学校の取組み -学校質問紙から-》

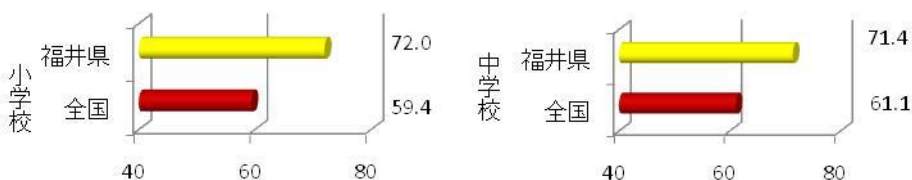
[成果]

本県の教員は、こどもたちの学習に対する意欲を高く評価する一方で、学習規律の維持を徹底していると答えた割合が全国と比較して高い割合となっています。師弟共に「授業は、真剣に取り組むもの」という高い意識がうかがえます。

○「子どもたちは熱意を持って勉強している。」

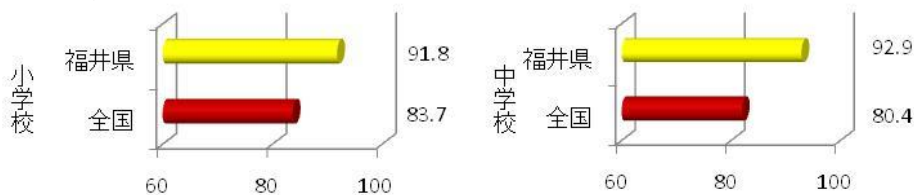


○「学習規律（私語をしない、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している。」



教科の取組みで特筆すべき点は、理科自由研究への取組みです。この割合も、小・中とも、他の学力上位県よりも高くなっています。子どもたちの高い課題意識や実際の観察・実験の取組みが、好成績に結びつきました。

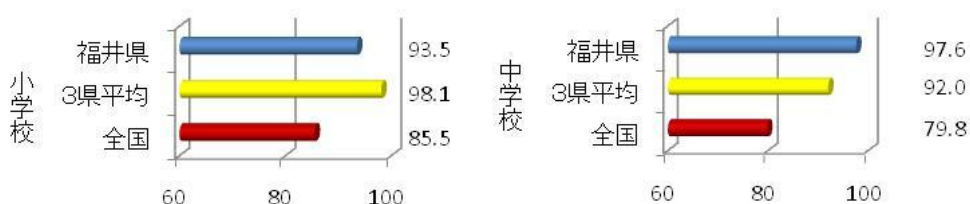
○「長季休業中に理科の指導として自由研究などの家庭学習の課題を与えている。」



[課題]

小学校では、他の学力上位県と比べ、学力調査の問題冊子等の活用割合が最も低くなっています。学習指導要領の内容が反映された問題です。決められた時間内に問題を解く等ルールどおりに、他の学年でも、十分に活用できるように工夫をお願いします。

○「学力調査の問題冊子等を利用し、具体的な教育指導の改善に反映させた。」



※「3県平均」の3県とは、秋田県、石川県、富山県です。



## 全教員向け

## いじめなどの問題行動をなくす

昨年、滋賀県において、いじめが背景にあると考えられる痛ましい事件が起きました。また、本年7月には、福井市の中学校で生徒の暴力行為が発生しています。

いじめや暴力行為は、絶対にあってはならないことです。しかし、これらは、どの学校でも起こりうる問題でもあります。今一度認識を新たにし、いじめが起きない魅力ある学校づくりを進めるとともに、いじめの兆候をできるだけ早く発見し、早期の対応を行うようお願いいたします。長期休業明けは、いじめなどの問題行動が心配な時期です。全職員が一丸となって、児童生徒の様子に十分な注意を払い、その変化や問題に対しては、速やかな対応を図っていくことが求められます。

## ○いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりを進めます

8月20日、フェニックスプラザで、「いじめ等問題行動をなくす」福井県全体会議を開催し、今後の対策として、次の4点を進めていくこととしました。

- ・人を思いやり、生命や人権を大切にする心を育てるための「心の教育」の充実
- ・いじめ問題対応の手引きや事例集の整備
- ・問題行動が犯罪行為につながらないように、防犯等に関わる関係機関との連絡体制の整備検討
- ・いじめ等問題行動に係る協議会や研修会の開催

このうち、「いじめ問題対応の手引き」や「事例集」については、現在改訂作業を進めており、教育委員会での審議を経て、今月中に配布したいと考えています。

また、小・中・高の校長会長やPTA、子ども育成連合会から、いじめ根絶に向けた意見表明がありました。教員がとるべき方針については次のとおりです。校長がリーダーシップを発揮し、いじめ等問題行動の防止を具体的に進める材料にしてください。

## (1) 未然防止策

○子どもたちに「いじめは絶対に許されないことである」という意識を徹底する

○魅力ある学校づくりを推進する

○常日ごろから子どもたちとの信頼関係を築く

- ・小さなサインを見逃さないため、児童・生徒との定期的な面談などに努める。
- ・児童生徒とのコミュニケーションを図ったり、生活ノート等を活用し、信頼関係をつくる。
- ・日ごろから先生と生徒、生徒同士が挨拶を交わせるような明るい雰囲気クラスづくりを目指す。

○思いやりの心について議論を深める

- ・道徳や学級活動、ホームルームなどを活用し、人権や思いやり、正しい行いについて議論しながら理解を深める。
- ・老人施設などを訪問し、お年寄りや身体の弱い人たちのお世話を促す。

○家庭との信頼関係を強める

- ・計画的な家庭訪問を行うことなどにより、保護者との信頼関係を高める。
- ・親の機嫌をとるのではなく、教員は日頃から毅然とした態度で臨む。

○インターネットへの監視を強める

- ・高校生については、インターネット等用いた問題行動の事例を日頃から調査する。また、裏サイト、ブログ等を監視し、誹謗中傷の記事がないかチェックする。

(2) いじめの早期発見・早期対応

○実態把握を徹底し関係者間で共有する

- ・いつ、どこで、誰が、誰に対して、どのような行為をしたのかを被害者、加害者、周囲の子どもたちから把握する。校長がリーダーシップを発揮し、対策チームや委員会を設置し組織で対応する。
- ・加害者、被害者双方の保護者に、教員が複数で家庭訪問するなどして事実関係を伝える。
- ・深刻ないじめが発生した場合は、教育委員会に速やかに報告し、十分な連携を図る。

○児童生徒への指導を徹底する

- ・いじめられた生徒には学校が最後まで守ることを伝え、安全・安心に学校生活を送れるようにする。
- ・いじめ等の問題行動をした生徒には、毅然とした態度で対応する。いじめは絶対に許されない行為であることを認識させ、被害者への謝罪を指導する。
- ・金銭的なトラブルが派生している場合は、弁済させる。

○家庭との意識共有を進める

- ・いじめた児童生徒の保護者に対しては、二度と起こさせないために何をすべきかを一緒に考える。
- ・いじめられた児童生徒の保護者に対しては、十分に時間をかけて話を聞き、不安や怒りを真摯に受け止め、いじめ解決に全力を挙げることを約束する。

(3) 事後の対応

○継続的な指導を徹底する

- ・いじめ等の問題行動が解決したと思われる場合でも、教職員が知らないところで問題行動が続いている可能性を常に意識して、個人面談、家庭訪問などにより継続した観察指導を行う。
- ・なぜ問題が発生したのか原因や背景を分析し、再発防止に向けて効果ある対策を実施する。

○組織的な生活指導が展開されるよう改善を加える

- ・基本的な生活習慣を含めて、生活指導に当たっての方針・基準等の見直しを図る。

※いじめに関しては、9月5日、文部科学省も「いじめ、学校安全等に関する総合的な取組方針」を策定し、アクションプランを公表しています。いじめに対する国の活動の参考にしてください。  
([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2012/09/05/1325364\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/09/05/1325364_1_1.pdf))

## 全教員向け

## 教育委員の活動の充実強化

教育委員の活動については、現在いくつかの改善に取り組んでいます。今後とも、こうした意見交換の場についても充実していきたいと考えています。

## 平成24年度からの教育委員の活動

- 1 教育委員の活動を積極的に情報発信します。
  - ・学校訪問をはじめ、教育委員の活動等を県ホームページ等の活用を通して広報
  - ・教育委員会に附議、報告・協議する案件の議事概要等を県のホームページでの公開
- 1 教育委員と知事の意見交換を定期的に行います。
  - ・意見交換を通して、教育委員会と知事部局との意思疎通を推進
- 1 教育委員が専門知識を高め、業務を分担する体制づくりを進めます。
  - ・教育委員が多様な教育分野の専門的知識を深められるよう事務局がバックアップ

なお、7月26日（木）、県立学校長と教育委員の意見交換会が開催され、教育委員から様々な意見がありました。今後の学校経営の改善に役立ててください。

[第一分科会] [第二分科会]	藤島・高志・羽水・足羽・三国・金津・丸岡・勝山・大野・丹南・丹生・武生・武生東・敦賀・美方・若狭・若狭東・鯖江
テーマ	今後の高校教育について
<b>&lt;教育委員の意見&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問した時の印象から言えば、授業が自分の高校時代とほとんど同じであり驚いている。（民間では、30年間イノベーションが起こらなかつたら生き残れない。）</li> <li>・ICTを活用するなどにより理解しやすい授業に向けた工夫が必要である。</li> <li>・サービスを受ける側の視点で、教育において普遍的なものは何か考えることが必要である。</li> <li>・社会の変化に敏感になり、最先端のことも取り入れていくことも必要。</li> <li>・机に向かうことだけが勉強ではない。体力を向上させ、健康の維持・増進を図ることが将来の伸びにつながる。切りかえを上手に促して時間を有効に使えるよう指導してほしい。</li> </ul>	

[第三分科会]	福井農林・坂井農業・小浜水産・科学技術・春江工業・奥越明成・武生工業・敦賀工業・福井商業・勝山南・武生商業・道守
テーマ	今後の職業教育について
<b>&lt;教育委員の意見&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の中小企業を支える人材を育てている意識を持ってほしい。</li> <li>・自信を持たせる経験を積ませてほしい。部活や資格取得での成功体験や苦勞体験を与えてほしい。</li> <li>・5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）も重要である。</li> </ul>	

[第四分科会]	盲、ろう、福井養護、福井東養護、福井南養護、嶺北養護、清水養護、南越養護、嶺南東養護、嶺南西養護
テーマ	特別支援教育の今後の進め方について
<b>&lt;教育委員の意見&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校卒業後の移行支援の充実をお願いしたい。</li> <li>・田舎で孤立している人はいないか。年老いた親が、誰にも頼れず子どもの面倒をみている、そういう状況がないよう対応をお願いしたい。</li> </ul>	

## 私が期待する教師像



林 逸男

（福井県教育委員長）

### ○人づくりは国づくり

現代は、まさに「秒進分歩」の時代です。

日々、時々刻々と新しい発見が生まれ、技術が進歩し、我々の生活を豊かにしています。

人づくり（教育）の重要性を示す言葉として、「人づくりは国づくりの基本」という言葉がよく使われますが、日本のように資源に恵まれない国において、特に教育が大切であることは、明治期の日本を見ると良く分かると思います。

中世の寺院での教育に端を発する「寺子屋」は、庶民層の子どもたちに読み・書き・そろばんを教える場でしたが、江戸期には都市部だけでなく農村部にも広がり、ほぼ全国に普及していたといわれています。特に幕末の江戸府内の識字率は70%であり、世界的にも最高クラスであったようです。

私は、こうした基礎があったからこそ、明治維新の日本は、当時の欧米列強諸国にわずか数十年で追いつくことができたと思っています。

### ○“内向き志向”の中で人づくりにかかわる教師のあり方

しかし、現代は明治維新以上に変化の激しい時代なのかもしれません。インターネット等の普及による情報化、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、非正規雇用の増加など産業構造・雇用の変化、低所得層の割合の増加による社会格差の拡大、企業の経済活動の海外シフトの進展による国際化等々、社会は急激に変化しています。

私は、第二次大戦後に生まれ、日本経済が急激に成長拡大する時代に育ち、働いてきました。常に明日は今日よりも、何かしら良いことがあると思える時代でした。しかし、現在の日本は長い低迷期に入って久しく、多くの課題も抱えており、国全体が内向き志向になりつつあります。

このように未来への展望が持ちにくい時代にあって、人を育てる教師という職は、これまで以上に大切になっています。

そこで、私が期待する教師像を申し上げます。

このような時代でありますので、子どもたちが、主体的に「自分の夢」を見出し、夢を実現し、何よりも社会や人々の役に立つ人材となって欲しいと思います。そして教師には、子どもたちがその夢を実現できるよう、「学力」だけでなく、「体力」、「情報解析力」、「国際感覚」、「人を思いやる心」など、必要となる多くの力や様々な資質を育てて欲しいのです。



○教師にお願いしたい3つのこと

そのために、私は教師の方には、次の三つの努力をお願いしたいと思っています。

第一は、「幅広い教養」です。

社会で発生している事柄にはいろいろな側面があり、立ち位置により見え方も違ってきます。一つの事柄を説明するには、様々な周辺情報を把握し、いくつもの考え方を理解することが必要です。教師が専門外であっても、最新の国際情勢や経済情勢などについて、常に幅広い知識、素養を持つ努力をすれば、授業にも広がりが出て、子どもたちの興味関心を喚起できるものになると思います。今一度、古典や専門書などに当たってみることも必要ではないかと思えます。

第二は、「専門性の向上」です。

教師は授業を行うことが業務でありますので、多くの方が、日夜、子どもたちに分かりやすい授業にするために腐心されているものと思います。冒頭申し上げましたが、学問の世界でも、いろいろ新しい発見がなされています。例えば、変わることのないと思われる過去の歴史でも、ある人物図が、実は別の人物であったという研究が進んだりしており、私が昔習った歴史知識というのは、今日では通用しなくなっているものもあるようです。勿論、このようなことは教科書に逐次反映されておりますが、変わることとなった背景、理由など、専門的な知識を深めることは、歴史に限らず子どもたちの理解を深め、よりよい授業を行う上で大切であると思えます。

最後は、「責任感と熱意」です。

子どもたちは、教師から学業だけでなく、人生観、職業観など様々なことを学びます。教師は、その後の子どもたちの生き方に大きな影響を与えます。子どもの頃、担任の先生に触発されて、先生になりたいと思った人も多いのではないのでしょうか。

「初心、忘るべからず」、子どもたちの将来を担っているとの思いを新たに、子どもたちに向かってください。教育委員会も努力する教師を応援してまいります。

## 新刊図書



■ 牧田秀昭、秋田喜代美「教える空間から学び合う場へ」（東洋館出版社）

講義型の授業が多い中学校の数学授業で、生徒一人ひとりの学びや思考の深まり、定着につながる授業づくりを目指している教師がいる。教師は授業への振り返りで、授業が変わる、生徒が変わる。その一歩は何であるのか。（以上、東洋館出版社HPより）

これからの新しい授業のあり方を提言する福井の教員と秋田さんのコラボレーション作品です。



■ 「教職課程 10月号」（協同出版） —福井の教員が全国に授業づくりを提言—

教員志望者向け雑誌「教職課程」では、福井県の教員が「模擬授業対策 わかる、できる、チカラがつく 授業のつくり方、進め方」というテーマで先月号から1年間にわたり、連載を行っています。10月号は社会科の授業について、小・中・高（日本史）の教員が分かりやすく、かつ、洞察深く提言していますので、是非ご覧ください。

## 研修講座案内（教育研究所）

日程や対象等の詳細は『教職員研修講座案内』または教育研究所のHPの講座案内をご確認ください。

<p>■■■■■ 教科に関する研修 ■■■■■</p> <p>B202 小学校算数科(Ⅱ) [10/31 9:30~16:00]  <b>今求められている算数科指導とは</b>          ・永平寺町吉野小学校で研究授業を実施          ・コアティーチャーによる実践発表</p>	<p>B822 高等学校英語科(Ⅱ) [9/28 9:30~16:00]  <b>生徒に英語を使わせる授業を!</b>          ・生徒主体の4技能を統合した授業設計          ・県立武生東高等学校で研究授業を実施</p>
<p>B301 小学校理科4年生(Ⅰ) [9/26 13:30~16:30]  <b>これで安心! 基礎からの小4実験指導</b>          ・「空気と水の性質」の観察や実験の指導法          ・「金属、水、空気と温度」の観察や実験</p>	<p>■■■■■ 学級経営・教育相談 ■■■■■</p> <p>C301 小中高等学校学級経営 [10/16 9:30~16:00]  <b>主体的な子どもを育てる学級づくり</b>          ・アドラー心理学に基づく学級集団づくり          ・子どもの実態と学級経営力の高め方</p>
<p>B302 小学校理科5年生(Ⅰ) [10/23 13:30~16:30]  <b>これで安心! 基礎からの小5実験指導</b>          ・「物の溶け方」「振り子の運動」の観察や実験          ・「電流の働き」の観察や実験</p>	<p>C606 子どもの心の病 [10/24 15:00~17:00]  <b>発達障害と二次障害</b>          ・脳科学から見えてきた心の病のメカニズム          ・二次障害につながらないために大切なこと</p>
<p>B307 小学校理科6年生(Ⅱ) [10/16 13:30~16:30]  <b>わかる! 「てこの規則性」の授業づくり</b>          ・「てこの規則性」の授業づくりのポイント          ・効果的な観察、実験の手法と教材の工夫</p>	<p>■■■■■ 情報・ICT活用 ■■■■■</p> <p>C708 便利に使おう! ワールド [10/16 13:30~16:30]  <b>機能を活用した一歩進んだ文書を作成しよう</b>          ・セクション、差し込み印刷、ラベル印刷の利用          ・目次の自動作成による文書作成</p>
<p>B322 高等学校理科 生物分野 [10/5 9:30~16:00]  <b>観察・実験を通じた指導の在り方とティーチング技術</b>          ・新教科書での生物の指導法と授業づくり          ・授業名人による授業づくり</p>	<p>C718 授業で活用しよう! ICT機器 [10/3 13:30~16:30]  <b>タブレット端末と電子黒板を活用しよう</b>          ・タブレット型端末と電子黒板の機能の理解          ・教材作成と模擬授業の演習</p>
<p>B702B 小学校家庭科(Ⅱ) B [10/16 13:30~16:30]  <b>これで安心! 『縫う』技術指導</b>          ・「生活に役立つ小物の製作」における技能          ・手縫い、ミシン縫いの基礎的な実習</p>	<p>C722B 実践できるサーバ管理の基礎 B [10/12 13:30~16:30]  <b>ユーザーと共有フォルダの管理を体験しよう</b>          ・ドメイン環境、アクセス権の設定          ・ネットワークドライブの割り当て</p>
<p>B811 中学校英語科(Ⅰ) [10/30 9:30~16:00]  <b>日々の授業にひと工夫を!</b>          ・言語活動を活性化する授業改善の方法          ・英語教育の動向に関する研究協議</p>	<p>■■■■■ マネジメント・課題追究 ■■■■■</p> <p>C904 学び合う授業の支援術 [10/23 13:30~16:30]  <b>授業に役立つファシリテーション入門</b>          ・対話を生む環境と教師の役割</p>
<p>B821 高等学校英語科(Ⅰ) [10/30 9:30~16:00]  <b>日々の授業にひと工夫を!</b>          ・言語活動を活性化する授業改善の方法          ・英語教育の動向に関する研究協議</p>	<p>C911 食育 [10/23 9:30~16:00]  <b>生活の礎に! 食育促進</b>          ・学校における食育の意義と指導法の工夫</p>

※既に受講申込みが終了している講座もあります。詳細は福井県教育研究所へお問い合わせください。

## 芦泉荘からのお知らせ



今年度より、新たに「合宿プラン」を企画しました。スポーツ系や文化系の部活動等において、多くの学生の方々にご利用いただけるよう格安価格で販売します。

- ・宿泊利用補助券が使用できます。
- ・夕食については、別途予算に応じて対応できます。
- ・送迎バス24名乗り1台(無料) ご用意できます。
- ・かけ流し温泉は、24時間いつでもご利用になれます。

## ご意見をお寄せください。

○福井県学力向上センターでは、これから毎月15日に、情報誌をお届けします。この情報誌は、教師の皆さんとのディスカッションによって質が深まります。記事の内容についてのご意見、ご感想、また、取り上げてほしいテーマ、紹介してほしい人や出来事など、なんでも結構ですので、皆様からのご連絡をお待ちしています。

**連絡先：福井県学校教育政策課**

住所：福井市大手 3-17-1

TEL：0776-20-0295

FAX：0776-20-0668

Mail：[gakukyousei@pref.fukui.lg.jp](mailto:gakukyousei@pref.fukui.lg.jp)